溶接ニュース（6面 動力工具特集ページ）

現場訪問

コード脱着式ディスクグラインダー

京セラインダストリアルツールズ

ユーザーへのデモ活動で市場浸透図る
「使いやすく安全」と高評価

京セラの脱着式ディスクグラインダー

京セラインダストリアルツールズ（広島県福山市）は2018年1月、京セラがリョービの電動工具事業を承継して誕生した。現在はプロ向け電動工具を「KYOCERAブランド」、DIYや高圧洗浄機、ガーデン機器を中心とする家庭向けの電動工具を「POWERシリーズ」とし事業を展開、着々と販売業績を伸ばしている。

こうした中、KYOCERAブランドのディスクグラインダー「RGシリーズ」は、同社独自開発の脱着式コードを採用したものとして、採用したユーザーから好評を博している。

今回、同製品を都内のユーザーへデモに行くとの情報を得たことから、同行して現場責任者に使用した感想などを取材した。

◇　◇

阿部工場長

同社ではこれまで同製品について、今回のようなユーザーへ出向いてのデモのほか、ワンボックスのキャラバンカーでユーザーを巡回する「京セラキャラバンセール」などを通じ市場浸透を図ってきた。今回のデモは、同社のホームページやSNS、展示会に使用するプロモーションビデオ用として企画されたもので、9月13日、東京都板橋区で各種タンクなどを製造する大平鉄工所（樋口茂太社長）で撮影が行われた。

撮影後の取材に応じてくれた同社の阿部稔工場長によると、同社でのグラインダー作業は「主に溶接部の研削・研磨工程や金属の切断作業に使用しており、グラインダーは導入後10年以上経過しているものを使用している」とのこと。

今回、阿部工場長は初めて京セラインダストリアルツールズ製ディスクグラインダー「RG112」（砥石径100ミリ）を使用。まず最大の特徴であるコードが脱着できる点について聞くと「1本のコードで複数台のグラインダーを取りつけられるということは、複数のコードが床面に這うことがなく、つまづきや転倒によるケガの防止につながる」と高い評価をした。こうした安全性以外にも、作業工程に合わせて異なる砥石を取り付けた複数台のディスクグラインダーを使い分ける場合など、作業のさらなる効率化が図れるといったメリットもある。

続けて実際に研削してみた感想を聞くと、開口一番「手にフィットして握りやすく、非常に使いやすかった」と満足げな表情で語ってくれた。

それもそのはず、RG112の特徴の一つが、直径52ミリという極細握りを実現した点。握りやすく作業がしやすいほかに、長時間作業時の負担軽減にも寄与する。

作業がしやすいもうひとつのポイントが、同社独自のギヤヘッドを丸くした構造にある。通常、グラインダーのギヤヘッドは四角い形をしているが、切断作業時に角が引っかかるというユーザーの声を反映し、丸形に改良したもの。丸形にしたことにより、切断砥石の使用面積が増えるため、取替作業の頻度が少なくて済むほか、長期的にみてランニングコストの低減にも貢献する。

実際に体験する阿部工場長

一方、阿部工場長は現場責任者の立場から「作業者の安全確保が何より大事」という信念を持っている。その意味でも、「スイッチがオンの状態で抜けたコードを差し込んでも動作しない『再起動防止機能』は、事故防止の観点からも非常にありがたい機能」とコメント。ちなみに本体のスイッチをオフにすると再起動防止機能は解除され、オンすると起動する仕組みで、安全面にも十分配慮したものとなっている。

また安全性確保という観点からは、二重絶縁構造を採用している点も挙げられる。阿部工場長は「万が一の感電事故防止にもつながる」と高評価を与えた。

その他、製品内部への粉じんや鉄粉侵入対策としては、ベアリング部にラビリンス構造を採用。モーター部には0・161ミリの格子目メッシュフィルターを取り付けることで、冷却風のみ取り入れることに成功するなど、故障の軽減にも配慮したグラインダーとなっている。

最後に阿部工場長は、「耐久性にも優れているということなので、ぜひ、社長に進言して今回試してみたグラインダーの導入をお願いしてみたい」と笑顔で語ってくれた。

KYOCERA

知らないのは
もったいない

電源コードの1本化で金属加工の現場を変える!

導入のメリット
作業効率が向上
収納性が向上
足元が整理され
安全な現場に

動画で見る▶

脱着式コード
ディスクグラインダー

京セラインダストリアルツールズ株式会社